

留学報告レポート

M2 高橋 信行

私の今回のプログラムの主な目的は、幅広い技術知識の習得、海外ならではの技術を知ること、海外生活や異なる背景（専門や学年など）を持つ学生との生活における自分の適応力の確認だった。

私は来年から社会人になるが、目の前の仕事に手いっぱいになるのではなく、幅広い知識や広い視野を持った技術者になりたいと思って会社見学が含まれる当プログラムに参加した。工場見学では、あまり事前知識がない分野では理解しきれない部分があったのが残念なところであった。これはそもそもの自分の知識不足とリスニング力が原因だったが、あまり満足できなかった。

私は就活も含めて日本の工場見学に行くことは何度かあった。そのため海外の工場と日本の工場の違いに注目できればいいと思っていた。実際、台湾では国内の自動車産業を守るために厳しいCO2規制を設けているという話を聞き、台湾の自動車バイク工場では、それに準じた性能を守っているということや、規格による製品保証が日本より重視されているのか見学時に配布されたイヤホンにULマーク（Underwriters Laboratories Inc., 主に電気製品に対する安全規格）が大きくついていたことなどいくつか違いを感じられたところがあり満足できた。

最後に、普段とは全く違った環境ではあったが、ある程度適応できた。食はあまり合わなかったが、体調も崩すことなく帰国できた。また、現地学生含む他の学生ともうまくやれた。学部生もプログラムに参加しており、6歳くらい離れた学生もいたが、その学生のテンションに合わせて問題なくきちんとコミュニケーションを取れたことは良かった。ただ、食が合わなかったため、これ以上の長期の滞在となると、少し気が引けるが、それ以外では日常の英語力を含めきちんと適応できる、ということが確認できた。社会人になって、こういった出張や旅行に対応できるかの目安ができたことは今後重要になると思う。